

「権限争議、府県制、そして初期議会
— 北垣国道日記「塵海」から —」

平成28年11月24日(木)

齋 藤 誠

権限争議、府県制、そして初期議会

—北垣国道日記「塵海」から—

2016.11.24 斎藤 誠

はじめに

塵海研究会編 『北垣国道日記「塵海」』2010年、思文閣出版
明治期の地方官が残した詳細な日記として貴重

北垣国道の略歴

- 1836 (天保7) 但馬国で庄屋の長男として生まれる
漢学を学ぶ
- 63 (文久3) 但馬生野の変に参加、因幡・長州を経て京都に潜入
維新第一世代 年齢としては、井上馨>北垣>伊藤博文
松田道之の知遇を得て、鳥取藩士になる。北越戦争で功を挙げる。
- 1869 (明治2) 弾正大巡察
北海道開拓使、熊本県大書記官、高知県令等を経て
- 1881 (明治14) 京都府知事 (楨村正直の後任) ~1892
琵琶湖疎水開鑿、地元資本の育成 (京都商工銀行など) などに「任地主義」で臨み事績を挙げる
- 1892 (明治25) 第一次松方内閣で内務次官 (いわゆる大選挙干渉で辞任した白根専一の後任) になるも、白根に同調して3日で辞任、ただちに北海道庁長官に任ぜられる
(左遷ではない、他の白根グループの処遇もほぼ同じ)
~1896
函館・小樽の築港、運河開鑿、北海道移民の奨励等に尽力
- 1896 (明治29) 拓殖務次官 (~97 拓殖務省自体が短命)
- 1899 (明治32) 函樽鉄道専務取締役社長、貴族院議員
- 1912 (明治45) 枢密顧問官
- 1916 (大正5) 京都市の寓居で生涯を閉じる (81歳)

1 権限争議

2 府県制をめぐる

山県有朋の欧州巡歴 (明治21年12月~22年10月) と府県制の成立

瀧井一博『文明史のなかの明治憲法』(2003年)

居石正和『府県制成立過程の研究』（2010年）、以下の経緯につき、同著に負うところが大きい

誰が府県会の議長になるのか

明治21年「内閣原案」 府県知事が議長

→井上毅の批判 府県知事が「府県会ノ奴隷」になり「行政ノ権力を麻痺」

→22年5月案 議員の互選

→同年11月案 府県知事議長案の復活←山県(グナイストが支持)

→井上の再批判「今日の有様…知事は一の玩弄物となることは目前」井上と末松が伊藤に書簡—判断を仰いだのか？

12月「法制局内務省会同最終決定」 議員の互選となる

日記⑥（翌年一月、北垣は京都府知事）の伊藤証言

* 2010年の地方議会・議員内閣制の議論を想起した

—イギリスではそうなってる！？（斎藤・ジュリスト1414号で批判）

3 初期議会（日記⑦⑩～⑫）

* 維新第二世代の議会論としては、都築馨六（1861～1923）の「超然主義」が著名であるが（板野潤治『明治憲法体制の確立』（1971）同『近代日本の国家構想』（1996）を参照）

第一世代の議会・政党観として

井上毅の演説と北垣の感懐をめぐって（日記⑪）

—古城貞吉稿『井上毅先生傳』1996年、175頁以下（⑩～⑫）

なお、井上の初期議会における活動につき、坂井雄吉『井上毅と明治国家』第4論文も参照

議会における議論と内閣—民主制・立憲制—現在の議会はどうか…